

2008年 セキュリティ専門家が 今後の成長を予測

GINNY LU, A&S国際版 エディタ

電子化したセキュリティ産業はこれからの5年間成長を続けるだろう。本誌では世界各地のベンダーおよび調査機関と2008年におけるこの業界の発展について意見を交換した。

2008年はエンドユーザーによって単独操作ソフトウェアや映像分析機器、ANPR(ナンバープレート自動認識装置)、建造物オートメーションなどの優れた機能を備えて統合化されたシステムに継続的な需要があるだろう」とADI-Gardiner社EMEAマーケティングディレクターColin Kramer氏は述べている。「無線技術はアクセス制御におけるキーとなる通信手段となり、多くの製品はこれを採用し、映像セキュリティにおける先端技術となるだろう。さらにPoEの利用度も上昇し、システムの効率を上げるだろう」と語っている。

Frost&Sullivan社のオートメーション&エレクトロニクス上級研究員であるArchana Rao氏

は次のトレンドとして末端でのアプリケーションに需要が生まれ、交通関連、スタジアム、小売業におけるノンセキュリティ監視アプリケーション(群集分析)や駅による混雑検知などに需要があると考

えており、生体認証によるシステムも成長を見せると考えているようだ。

いる。

製品 警報システム

AES Intellinet Corp社のCOOであるMark Brandstein氏によると、「セキュリティ技術における発展とは、網目のようにIPネットワークを備えた技術による広帯域性、他の遠隔通信やイベント監視の需要に対する技術なども包含している」とのことである。

従来の有線電話サービスなどは携帯電話、ネット電話などに変遷してきているが、携帯電話やインターネット電話などは警告通信としてうまく作動することができず、さらに毎月の費用が必要であるため、警告通信におけるメッシュラジオ、プライベートラジオ(パブリックラジオと対比して)の価値や魅力を大きく高めているのである。そして遠隔による火災警報中央監視は経済発展の著しいインド、中国、ラテンアメリカの一部において急速にニーズが高まってきている。

監視システム

「ビデオ内容分析ソフトウェアにより、できるだけ多くの映像ファイルを保存しておくことは非常に重要なことである」とAMG Systems社営業部長のSara Bullock氏は述べていて、続けて「ビデオ信号を圧縮してしまうとその映像の重要な情報は破棄されてしまい、決して元に戻すことができない」と語っている。

「市場は次の『うねり』へと動いており、IPカメラを備えたネット

ワークビデオ監視、IPビデオサーバー、NVRを利用するようになってきている」とPixim社販売マーケティング部副部長のJohn Monti氏は述べ、「この『うねり』が次のサーバランス業界を形成するだろう」と語っている。そして「すでにネットワーク関連企業が市場に参入して、今後半導体やソフトウェアそしてIPカメラ、ネットワークDVR、IPビデオサーバーの一段の改良とともに、ネットワーク監視は集約化され統合化されるであろう」とも語っている。

ビデオ監視は交通機関、末端分野において新しいアプリケーションを模索しており、周辺監視アプリケーションにおけるWDR(広帯域信号帯域)監視の重要性が増してきている。

「2010年から2015年までに、ビデオ占有量により音声および他のデータがインターネット上で配信できるようになるだろう」とMilestone Systems社法人営業主任のEric Fullerton氏は述

べ、「IP技術が先導役となる」と話してくれた。さらに記憶装置環境におい



PIXIM社 販売マーケティング部副部長 JOHN MONTI氏

でも革新は進んでおり、さらに信頼性が高くなってきている。たとえばSSD(Solid State Drive)などはフラッシュメモリを含めて全体を構成するようになってきていて、稼動部もないため劇的に性能を向上させている。これらのドライブは1秒間に100Mバイトもの読み取りや書き込みができ、MTBF(平均故障間隔)はおよそ2百万時間で、228年という計算になるのである。

「IPカメラが一般的になるに従い、IPベースカメラのメーカーは分析機能をカメラに加えることにより付加価値をつけていくであろう」とFullerton氏は話しており、「実際のところ異なる方法で価値がつけられているため、エッジ(カメラ内)およびヘッドエンド(サーバ)の両方に分析機能が必要である」と語っている。

Axis Communications社創設者で取締役のMartin Gren氏は「末端アプリケーションは末端だけが処理能力を持つても意味がないということをうまく示している。たとえば店内の誰かがある定義により追跡するにはサーバベースでなければならない。MPEG-7のようなメタランゲージがエッジにおいて処理するであろうが、少なくとも末端においてはほとんどの処理はサーバから得られるのである」と語っている。

「メガピクセルカメラは今後もさらに強化され続けるであろう」とioimage社マーケティング副部長のDvir Doron氏は述べている。彼は「セキュリティ担当者は犯人を容易に見つけられるような、より良い探知機能や高解析度を求めている。高解析度とはフルIP化やネットワークの拡大を意味しているの



■テクノロジーの成長に伴い、アクセスコントロールシステムは絶え間なく伸びている。

ではなく、新しいカメラにより対象をズームアップした際にはっきり見えるようになることを意味している」と話している。

カメラ-to-カメラ、自動監視というのがもうひとつの時流になっている。「今日のほとんどのビデオ監視ソフトウェアは、人が行なう意思決定や対処を代行することができないのであり、ioimage社は自動で複数発生している出来事を結合することにより、制御室の操作担当者の業務軽減に取り組んでいる。たとえば侵入者が固定カメラにより表示されたとき、PTZが自動でその方向に向きを変え、彼らをロックオンし固定カメラの撮影範囲を超えてもフォーカスを保ってくれる」とDoron氏は話してくれた。

Magal Security Systems社マーケテ

ィング副部長のAdam Rosenberg氏によると、「ローカルソリューションのためのいわゆる『機械』を開発することにより進歩は続くだろう。ビデオ分析と生体認証分析は2つのアイテムである。ビデオ分析が非常に見世物的だが、カメラ自体が見つけれられないものを見るという解決策を持っている人はいないのである。企業はこの『機械』で宝箱を探しているが、企業はセキュリティにおけるエッセンスを捉えていないのであり、進歩はソリューション全体と技術の組み合わせにより成し遂げられなければならない」と語っている。

アクセス制御

「SaaS(Software as a service)モデルはあらゆる業界で見ることができるよ

うになった」とBrivo Systems社マーケティング部長のMeredith Esham氏は述べている。企業は高価なライセンスを購入するよりも必要な機能だけを購入することができるSaaSのほうが効率的と理解しているのである。SaaSは彼らに本来の業務に集中させ、セキュリティシステムを選択などに時間を費やす必要をなくし、低コストで利便性を追求し、容易に設置して利用することができる事実をもたらしてくれる。

セキュリティシステム、ITの集中化を通して、多くの組織が革新的な方法でそれぞれの財産を守っている。電子式セキュリティ機器はすでに導入されている通信手順および基盤整備を利用しているにもかかわらず、多くの情報を集約し供給し多くの利益をもたらしている。通常は本来業務を中断させないために利用されていたが、今ではこれらの機器は戦略的なビジネスツールとして用いられるようになってきている。さらに統合化を利用してビジネスの幅を広げ利益を拡大しているようだ。

アクセス制御システムの次の革新的な技術としては、ドアにIPベースのネットワーク機器を取り付けるということになるだろう。ローカルネットワークによる管理のため、データベースやウェブサーバを備えたドアネットワークアダプタは他の機器として構成されるようになるだろう。

生体認証

Frost&Sullivan社によると、生体認証が北米で最も急進的なアクセス制御の手段として登場してきている。これは特に空港、駅などでの登録という作業において非常に大きな働きをし



■AXIS COMMUNICATIONS社 創設者及び取締役 MARTIN GREN氏

ていることであり、INCITS社およびANSI社はBioAPI標準を認めており、INCITS358-2002情報技術—BioAPI仕様およびCBEFF(common biometric exchange file format)は国際協調を増幅している。

垂直的な市場

Doron氏はさらにスペシャライズされたビデオ分析アプリケーションを見越している。「落書きは非常に厄介なものになっており、列車や街にある像にも影響を及ぼしている」と語っており、車上荒らしや荷物泥棒の防止などにも注目している。

「高度なネットワークカメラが独特な要求に応え市場を垂直化するだろう」とLumenera社のセキュリティ市場開発部長であるJohn Recesso氏は述べている。そして「泥棒などを監視するすばらしいソフトウェアアルゴリズムが犯罪を解決する際の決定的な手段とな



■AMG SYSTEMS社 営業部長 SARA BULLOCK氏

りうる」と続ける。

「地方政府関連ビルには連邦標準が採用されている」とVisual Defense社CEOのDagan Sadeh氏は述べている。そして彼は「したがって拡大地域のセキュリティシステムを垣間見ることができるのであり、政府はさらに交通機関に対して基盤整備して、セキュリティ関連の予算を設けているのである。またこれと同時に監視における携帯セキュリティソリューションやバス、列車の監視はさらに強固で高度なものになり、政府の投資に見合うものとなってきている。またこれら携帯セキュリティ技術の採用はさらに急速に広がりをを見せている」と話してくれた。

世界中の空港ではセキュリティの強化に大きな重圧がかけられており、一段と最新のセキュリティ技術を採用し、人々が安心して旅行ができるよう図っているのである。